

秋季における刺網でのホンモロコ漁獲物調査

磯田能年・米田一紀・大植伸之

1. 目的

ホンモロコの資源管理を推進していくための基礎資料とするため、秋季に盛んに行われている刺網漁について、漁獲物の体長や年齢等の調査を行った。

2. 方法

調査には、2019年10月17日～11月16日に、漁業者3名によって琵琶湖北湖で刺網により漁獲されたホンモロコを用いた。基本的には、各漁業者ともに期間中に2回、標本を購入した。また、比較として2019年11月のエリ1日分の漁獲魚を用いた。標本は、冷凍保存とし、解凍後に体長等を計測した。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

漁業者別の漁獲物の平均体長を図1に示した。漁業者別の漁獲物の平均体長は、 78.11 ± 7.00 (平均±標準偏差)～ 86.57 ± 3.77 mmであった。漁業者ごとに用いた刺網の目合いは異なるため、これに伴って漁獲物の平均体長に違いがみられた。

刺網漁獲物はすべての漁業者で、エリ漁獲物より大きかった。

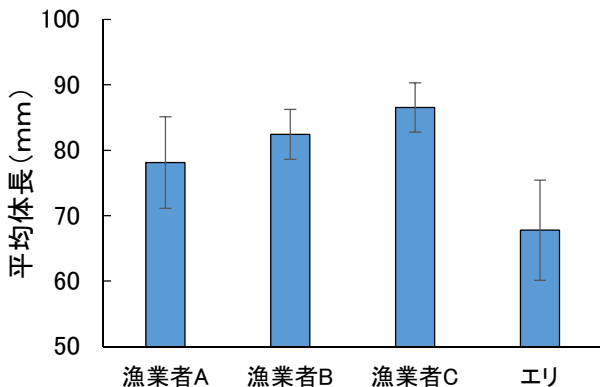


図1 秋季に刺網で漁獲されたホンモロコの漁業者別の平均体長

漁獲物の0歳魚の割合は漁業者A、B、Cそれぞれ98.6%、97.9%および98.1%と、漁獲物のほとんどを0歳魚が占めていた。2018年と2019年の年齢構成を同じ漁業者間で比較すると、漁業者Cでは0歳魚の比率が年度間で大きく異なっていた(図2)。

以上のことから、2019年の秋季における刺網では、成長の良い0歳魚を選択的に漁獲していることが明らかとなった。

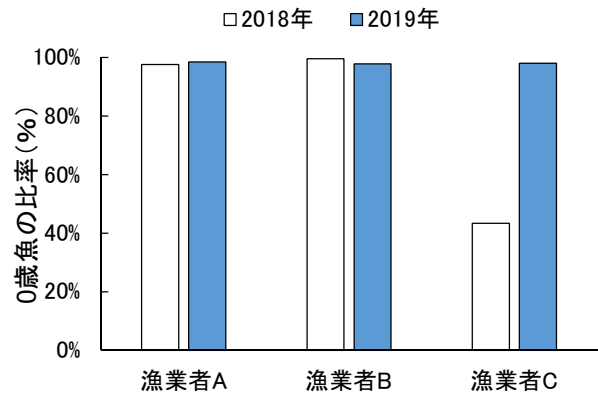


図2 刺網漁獲物中の0歳魚の比率

本報告は、滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の中で行われた成果の一部である。